

柔らかなココロ



「女だっていいじゃないか」

4月は入学・進級のシーズン。うちの長男坊も無事に幼稚園入園と相成り、それに伴う母仕事も増え、四苦八苦している毎日を送っている。

入園となると園で指定された制服や通園バックお道具箱等を揃えたが、シューズバック、体操服入れなんかは指定外なので親のセンスで準備を行わなければならない。そしてこれがまた悩ましい。入園式の日が迫ってくる中、バタバタしながら市販の物を見つけるも紐が長すぎたり、柄が気に入らなかつたり、値段の折り合いがつかなくなかつたりと、帯に短し褌に長し・・・のモノばかり。

帯と言えば、女子の黒帯が国際柔道連盟の規格に合わせ白線の入っていない黒帯に変更になると全日本柔道連盟が発表した。正式に発表されている今年度の黒帯で実施する大会は3つ。11月の講道館杯、3月の全日本高等学校選手権大会、同じく3月の近代柔道杯全国中学生大会（白線入り帯との混在を認める）となっている。その他の県大会等の試合については主催者側の判断に委ねるとのことだ。

では、女性の黒帯第一号はというと、昭和8年武徳会大阪支部の紅白試合で男性柔道家を次々に破って勝ち上がった小崎甲子さんという女性。当時は嘉納師範により女性の試合が禁じられていた為この昇段はもめにもめたらしいが、その日会場に訪れていた師範の「女だっていいじゃないか」という一言で女性初の初段が決まったとういうことだ。

そして、白線入りの黒帯はなぜ誕生したのかという疑問が沸き、調べたところ、残念ながら白線入りの黒帯の理由は文献には残っていないという結論にたどり着いた。

話は戻り、ぴったりの帯ならぬシューズバッグ・体操服入れを探し疲れた私は、意を決して手作りすることに決めた。幸い、手芸の得意な方から手取り足取り教えて頂き、なんとか作り終え、それを持って毎日息子は幼稚園に通っている。

気は早いがあと数年後には次男坊の入園もある。その時は市販の物は探さず、早々にミシンを出し「手作りだからいいじゃないか」と自分一人で作ってみようと密かに企んでいる。

参考：まいんど VOL 9

(近藤 優子)